

まちの名に歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

いまい 今井

交野高校北側の向井田あたりを今井と呼びます。中世の鎌倉・室町時代頃まで寺の集落はこの地域にあったと言われています。その理由は巽山たつみやまという小さな丘（現在の泉団地付近）の名前にあります。「巽」は方角で言う南東にあたり、巽山は今井から見ると南東にあることから、今井の集落に住んでいた人々が名付けたのでしょう。

しかし、集落の背後にあった竜王山などは風化の激しい花こう岩地帯で、大雨などで土石流が起ると、一帯に大きな被害をもたらしました。今井の人々は比較的被害の少ない尾根筋の小高い地域に移り住んだのか、集落は無くなりました。その後、今池から水を引いて水田となり、寺でも有数の美田となりました。

でがいと 垣内は「かきつ」から転じて「かいと」と読むようになりました。

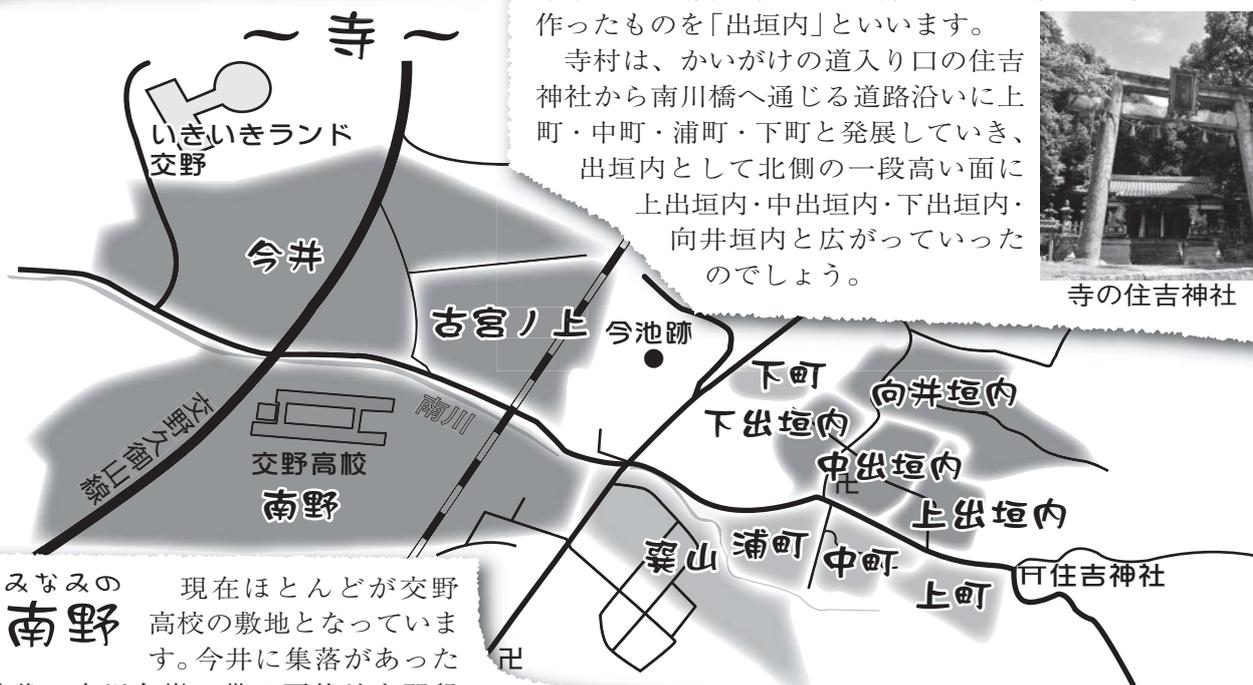
本来の意味は、耕作予定地を垣で囲んだ地域のことで、平安時代初期から文献に地名として現れます。多くの地域では畑ですが、なかには居住者のいる土地（居垣内いがいし）もありました。

この垣内が地域の最少自治単位となっているところもあり、この場合、元となる村などから離れて外に垣内を作ったものを「出垣内」といいます。

寺村は、かいがけの道入り口の住吉神社から南川橋へ通じる道路沿いに上町・中町・浦町・下町と発展していき、出垣内として北側の一段高い面に上出垣内・中出垣内・下出垣内・向井垣内と広がっていったのでしょ



寺の住吉神社



みなみの 南野

現在ほとんどが交野高校の敷地となっています。今井に集落があった時代に南川左岸一帯の扇状地を開墾し、南野と呼ばれるようになりました。

ここからは5世紀代の古墳が5基発見され、交野車塚古墳群と名付けられました。特に東車塚古墳は、埴輪の形状や副葬品の種類から古墳群の中でもっとも古く、被葬者は肩野物部氏だと考えられています。東車塚古墳は府指定の史跡となり、出土品も府指定有形文化財となっています。



東車塚古墳の出土品

ふるみやのうえ 今井の中には「古宮」という地名が残されていて、今井に集落があった時代に、祖先を祀る神社があったと考えられます。今井の集落が現在の寺地域に移動し、住吉神社が祀られるようになり、古い神社が無くなったことから古宮と呼ばれるようになり、今井よりも高い位置にある土地を古宮ノ上と呼ぶようになったのかもしれない。

ふるみやのうえ 今井の中には「古宮」という地名が残されていて、今井に集落があった時代に、祖先を祀る神社があったと考えられます。今井の集落が現在の寺地域に移動し、住吉神社が祀られるようになり、古い神社が無くなったことから古宮と呼ばれるようになり、今井よりも高い位置にある土地を古宮ノ上と呼ぶようになったのかもしれない。